

【麓老神地区】『復興まちづくり計画（たたき台）』について②

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体的取り組み内容は、決定事ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。
黄色網掛け箇所が第4回地区別懇談会の参加者の主な意見です（決まった内容や事実確認をした内容ではありません）。



麓・老神地区の若手との意見交換会

8月5日に地区別懇談会の場とは別に（地区別懇談会に日程が合わない等の理由で参加が難しい方等）、麓・老神地区の若手の皆様に集まっていただき、意見交換をさせていただきました。会では、集まってくださった皆様から、令和2年7月豪雨当日の地区の状況についてお話をいただき、その上で新たな避難場所候補や減災に向けたハード面の改善について意見やアイデアをいただきました。意見交換を行う場を、復興まちづくり計画を策定するまで引き続き持ちたいと考えております。

その場でいただいた意見等について、今回の「地区別懇談会だより」には掲載していません。次回地区別懇談会の中で、皆様と、若手の皆様にいただいた意見も踏まえて意見交換を出来ればと考えております。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
 〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
 Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
 E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.3

麓老神地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第4回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。
麓老神地区の対象地区は、麓町、老神町、新町、田町、南寺町です。

◆第4回地区別懇談会

- 1 治水対策に関する国・県からの説明
- 2 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
 - ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
 - ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案（修正案）について
- 3 地区ごとの話し合いと全体共有
 - ・復興まちづくりの具体的な取り組み方向案について
- 4 今後の進め方について



7月26日（月）18時から、人吉東小学校体育館で開催しました。
 （参加人数：37名 ※中心街地区と合同開催）

復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた「復興まちづくり計画」を策定します。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

今回の開催予定：**第5回 9月16日（木）18時30分より**

今回のテーマ予定：**復興まちづくり計画計画（素案）について**

会場：人吉東小学校体育館

（注）地区別懇談会については、新型コロナウイルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）
- ・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

【麓老神地区】これまでの地区別懇談会意見を踏まえた『復興まちづくり計画（たたき台）』について①

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画(案)です。具体的取組み(案)は、決定事項ではなく今後の関係者調整を含めた具体化への精査・検討が必要です。黄色網掛け箇所が第4回地区別懇談会の参加者の主な意見です（決まった内容や事実確認をした内容ではありません）。

麓老神地区は、球磨川と胸川の合流点に位置し、胸川の氾濫も想定されることから「胸川」の東岸と西岸で「安全な避難」を実現するために必要となる取組と、人吉城址を中心としたまちづくりに向けての検討を進めています。

取組みの柱	地区の主な課題 (地区の復興まちづくりに向けた主な課題)	取組み方針 (課題解決のための取組み方針)	具体的取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	<input type="checkbox"/> 浸水した家屋の片付け（公費解体） ・公費解体の順番待ちの状況。 ・地区内で被害の大きかった新町の今後の心配。 <input type="checkbox"/> 地域の高齢化、及び空洞化 ・高齢者が増え、住民同士の付き合いが減っている。 ・若い世代の住民が減少（南町） ・空き家が増加 ・田町に旧商店街の古い町並みが残っているものの、空き家が多い。	<input type="checkbox"/> コミュニティの再生 ・若い世代をはじめとした新住民の受け入れ。 ・マンション居住者の共益費に区費を含める。 ※法的な確認は必要 ・田町に残っている旧商店街の古い町並みの活用。	<input type="checkbox"/> コミュニティの再生 ・古民家をリノベーションして、若い世代の入居・転入促進 ・南寺町・新町の町内の統合を検討 ・麓町・南寺町の交流促進 ・ 新市役所庁舎周辺のまちづくりの検討
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	<input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・城址、人吉城歴史資料館の使い勝手が悪い。 ・人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。	<input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・城址公園をイベント会場などに活用。 ・歴史資料館収蔵品を浸からない場所への移動した上で保存。	<input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・歴史資料館を観光情報センターとして再利用 ・城址公園（人吉市役所跡地、含）の整備及び利用促進 ※市役所跡地の活用方法の早期の検討・実施 ・歴史館の入場料無料化（市民のみ対象/歴史を知る機会の増加） ・ タブレット端末等（再現CG）を使った散策（ITの活用） ・レストラン・茶屋など休める空間の整備 ・観光の核として老神神社の活用促進
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	<input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・指定避難所の保健センターまでの道が狭く、胸川沿いに立地しているため危険。 ・胸川東側の地区は橋を渡るのが危険。東側で避難所の確保が必要。 ・新町町内会館が浸水した。今後避難所として利用できない。 <input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保 ・発災状況の確認が遅れて逃げ遅れが発生。 ・町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。 ・防災に関わる町内会長の業務引継ぎが不十分。 ・高齢者の逃げる手段、見守りの体制が十分でない。	<input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・胸川西岸は第一中学校を避難所として利用する（将来的に新庁舎、医療センターや裁判所の垂直避難）。 ・胸川東側は相良神社、林鹿寺、東林寺を避難所として利用する ・麓地区の公民館設置の検討（管理等が大変なので設置しない方向/相良神社の活用） <input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保 ・町会長の負担を軽減・分散する ・町会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災の業務引継ぎを強化。 ・市の出前講座を活用した防災への認識・体制を強化。	<input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保・確認 ・【胸川西岸】第一中学校、別館保健センターを指定避難所に指定済み。 ・【胸川東側】相良神社、林鹿寺、東林寺の自主避難所として覚書締結。 ※林鹿寺は麓町・田町の自主避難所に指定済み ・民間地の避難所利用に関わる覚書等の締結（必要に応じて行政支援） ・災害時・避難時用の駐車場の整備・確保 <input type="checkbox"/> 地域性を踏まえた防災マップの作成 ・防災まち歩きによる、危険個所の確認。及び各町内の詳細な防災マップの作成 ・高齢者・要支援者の連絡網・マップの作成。 <input type="checkbox"/> 防災拠点等の整備 ・人吉医療センター、新市役所庁舎を防災拠点として指定 ・老神排水樋門の機能改善
	<input type="checkbox"/> 町内の共助の確保 ・過去も浸水した記録がないので、自主防災組織を立ち上げていない。 ・災害発生時、世帯で電気・水道の有無が分かれた。	<input type="checkbox"/> 町内の共助の確保 ・隣接する町内会と共同で自主防災組織の立ち上げ、及び活動の充実化。 ・町内住民の互助体制を構築。	<input type="checkbox"/> 防災意識の醸成、体制の強化 ・自主防災組織の立ち上げ、地区防災計画の策定（役割の分散化 他） ・実践的な避難訓練の実施。 ・災害時の女性部の活動強化 ・災害時の住民間の支援体制の構築
	<input type="checkbox"/> 早期の避難情報の発信 ・避難情報が聞き取り難い。	<input type="checkbox"/> 早期の避難情報の発信 ・携帯電話/エリアメールを使った早期避難情報の発信。 ・行政・消防による「空振り覚悟」の避難情報を発信。	<input type="checkbox"/> 情報発信機能の強化 ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 ・支流（胸川 他）の出水状況をきめ細かく情報提供する機能の強化。
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	<input type="checkbox"/> 本川と支川の合流部の氾濫 ・胸川から本川に流れ込みづらい。バックウォーターの発生。	<input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下	<input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等